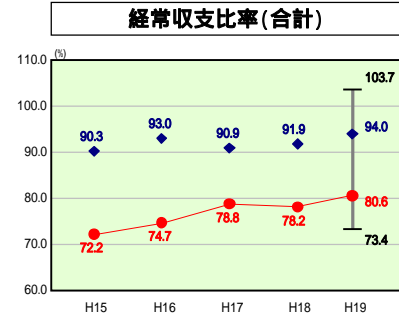


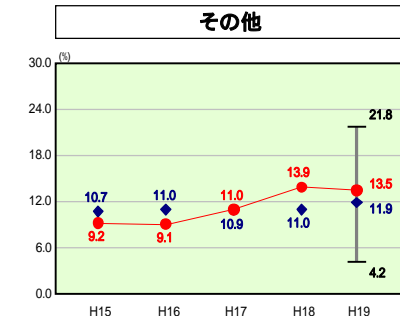
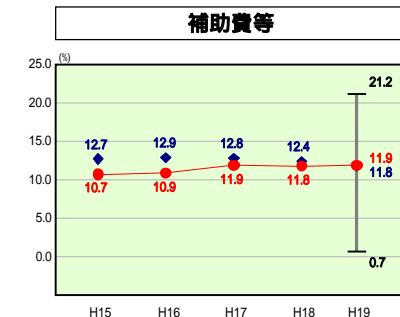
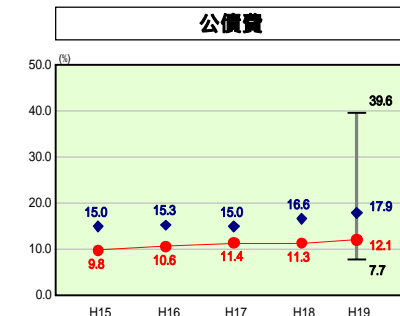
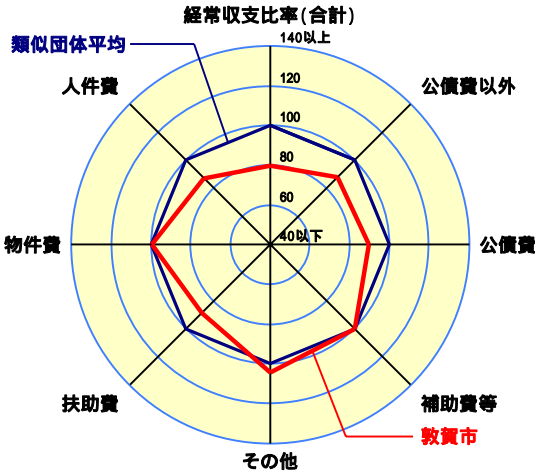
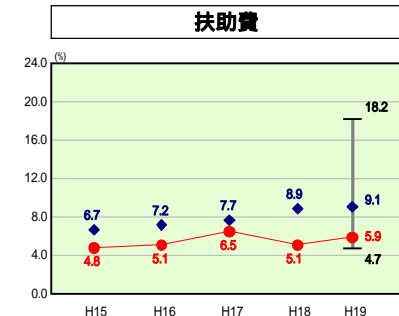
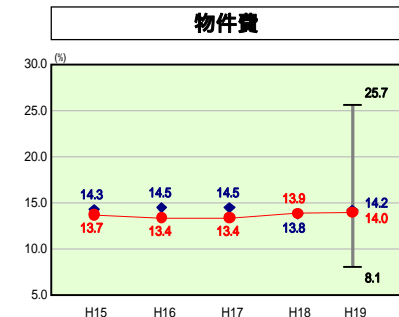
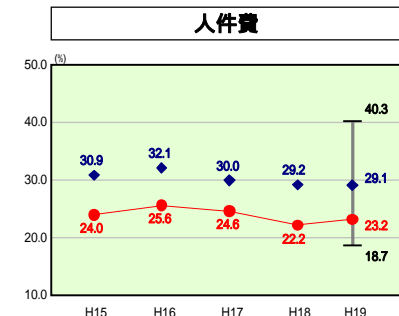
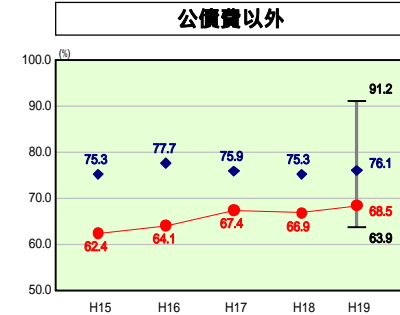
歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

経常収支比率の分析



当該団体値 ●
類似団体内平均値 ◆
類似団体内最大値 ー
類似団体内最小値 上

人口	67,963 人(H20.3.31現在)
面積	250.75 km ²
歳入総額	26,466,011 千円
歳出総額	25,445,166 千円
実質収支	883,372 千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費
集中改革プランに掲げた定員管理計画が順調に進捗しており、職員給与費が年々減少しているため、人件費に係る経常収支比率は、他団体に比べ低くなっている。今後も、計画に基づいた人件費の抑制に努める。

物件費
物件費に係る経常収支比率が高くなっているのは、集中改革プランに基づき、各種業務の民間委託や指定管理者制度の導入等を推進していることによる委託料(物件費)の増加が主な原因である。今後も、官から民への流れの中で、民間委託できる業務については、積極的に委託を進める予定であるため、物件費の増加が見込まれる。

扶助費
平成19年度より児童手当の支給年齢が引き上げられたこと、自立支援法の施行に関連し遊学緩和措置がとられたことなどにより、扶助費に係る経常収支比率が上昇した。また、今後も高齢化の影響等は避けられず、扶助費は増加すると見込まれる。

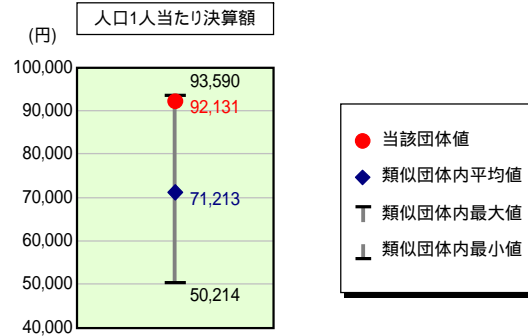
公債費
過去からの起債抑制策により、他団体に比べ、公債費は抑制されている。今後、臨時財政対策債等の元金償還により、増加が見込まれる。

その他
その他に係る経常収支比率が他団体を上回っているのは、特別会計への繰出金が主な原因である。特に下水道事業については多くの繰出しを行っているが、平成19年度は下水道事業債(特別措置分)を発行したため平成18年度よりは減少した。今後も、下水道事業については、経費の削減に努めるとともに、使用料の適正化を図る。

歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

福井県 敦賀市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

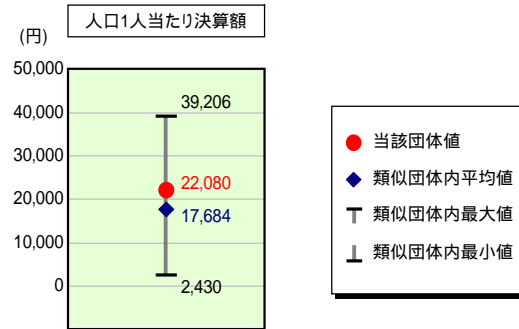
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		対比(%)
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	
人件費	5,415,264	79,680	65,725	21.2
賃金(物件費)	535,740	7,883	3,079	156.0
一部事務組合負担金(補助費等)	896,912	13,197	5,677	132.5
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	209,458	3,082	753	309.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	1	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	206,901	3,044	3,083	1.3
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	115,092	1,693	1,194	41.8
退職金	1,117,853	16,448	8,299	98.2
合計	6,261,514	92,131	71,213	29.4

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.95	6.53	1.42
ラスパイレス指数	95.9	98.5	2.6

ラスパイレス指数及び職員数に係る項目については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである(以降の項目について同じ。)。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目を「-」としている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

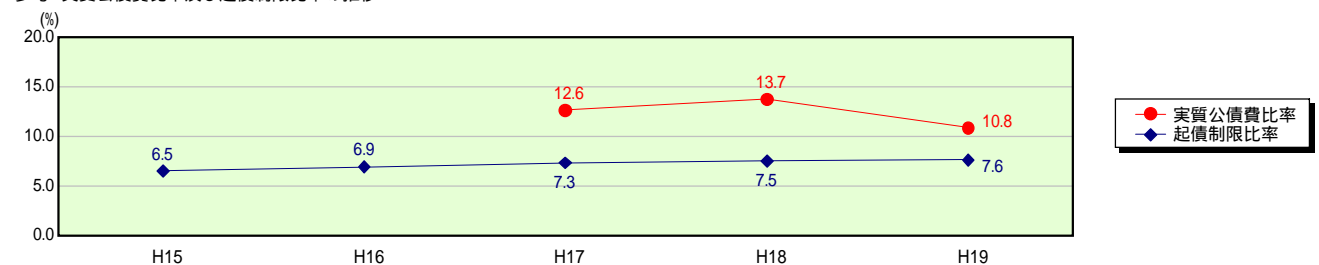


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		対比(%)
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	
公債費充当一般財源等額 (繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く。)	1,575,767	23,186	27,341	15.2
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)等	-	-	96	-
公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	1,419,645	20,888	9,908	110.8
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額	57,949	853	3,433	75.2
債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額	-	-	1,680	-
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	36	-
地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	1,552,727	22,847	24,810	7.9
合計	1,500,634	22,080	17,684	24.9

平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、「-」としている(以降の項目について同じ。)

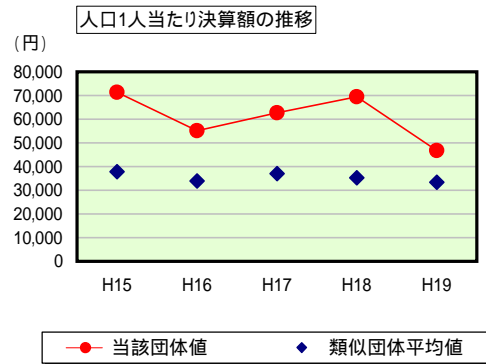
参考 実質公債費比率及び起債制限比率の推移



歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

福井県 敦賀市

普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H15	4,838,112	71,286	44.0	37,815	24.2	19.8
うち単独分	3,500,398	51,576	43.2	24,749	26.5	16.7
H16	3,743,749	55,126	22.7	33,970	10.2	12.5
うち単独分	2,644,002	38,932	24.5	21,865	11.7	12.8
H17	4,270,574	62,662	13.7	36,976	8.8	4.9
うち単独分	3,028,766	44,441	14.2	21,184	3.1	17.3
H18	4,731,648	69,519	10.9	35,287	4.6	15.5
うち単独分	4,000,126	58,771	32.2	22,883	8.0	24.2
H19	3,179,947	46,789	32.7	33,360	5.5	27.2
うち単独分	2,227,181	32,770	44.2	21,314	6.9	37.3
過去5年間平均	4,152,806	61,076	15.0	35,482	7.1	7.9
うち単独分	3,080,095	45,298	13.1	22,399	8.0	5.1